

昭和四十二年三月十四日招集(第三号)
第一面市議定会定例会會議錄

館山市議会第一回定例会会議録(第三号)

昭和四十二年三月招集

一 三月十四日(火曜日)

一 議事日程(第三号)

第一議案第二十八号 館山市国民健康保険条例の一部を改正
する条例の制定について

第二議案第二十九号 館山市福祉事務所設置条例の制定に
ついて

第三議案第三十号 館山市附属機関設置条例の制定について

第四議案第三十一号 館山市内字区域及び名称の変更について

第五議案第三十号 昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

第六議案第三十一号 昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会

計補正予算

議案第三十二号 昭和四十一年度館山市と畜場特別会計補正

予算

議案第十三号 昭和四十一年度館山市休養施設特別会計補
正予算

議案第十四号 昭和四十一年度館山市館山エスエスエル特別会
計補正予算

議案第十五号 昭和四十一年度館山市上水道事業特別会
計補正予算

午前十時五分 開議

。議長（田中祿郎君）本日の出席議員数二十六名

これより第一回市議・定例会第三日の会議を開会いたします。本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。日程第一議案第二十八号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（田中祿郎君）議案第二十八号は討論者略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議案第二十八号は原案通り決定されました。日程第二議案第二十九号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（田中祿郎君）議案第二十九号は討論者略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて議案第二十九号は原案通り決定されました。

日定第三議案第三十号を上程いたします。

一〇番(辻田実君) この条例の中で任期の点について質問いたしたいと思うわけでございますけれども例えは

館山市畜産奨励委員会なら二年間経過すると、その前に委員の補充をしないと任期が自動的に切れる。こういう解釈が成り立つのかどうか、それとも残余の期間をある程度慣例的に次の者がきめられるまで延長していくというような幅はこの任期の中にあるのか。

それから第二点は館山市畜産奨励委員会もあるわけでありますが、この中の委員構成でございますが、名称が畜産奨励委員会になっておりまして構成が酪農関係者

と知識経験者ということでございます。畜産ということになります。さらに養豚、中馬、こういうものもあるわけであり、それから畜産という言葉を使ってあるから、本当に畜産関係者を網羅すべきではないかと思うが、この点について御説明願いたいと思います。

。市長職務代理者助役（小出武男君）

ただいま辻田議員の質問二点ござりますが、一点について申し上げます。任期の問題でございますが、これは従前の条例を全部ここに集約した形でございまして、任期についてはやはり任期が切れたときに切る。こういう原則でいきたいと思っております。

。農林水産課長（伊藤幸太郎君）

お答え申し上げます。畜産奨励委員の設置につきましてはいろいろお話しのごびです。通り畜産全部のことについてのことであるわけでございます。

設置の目的がそうになっております。従前は酪農的のものが
 中心であるという現実でございます。お話しの内容の問題に
 つきましては御指摘の点については今後考えて参りたい
 と考えておるわけでございますが、あくまでも畜産奨励委
 員は畜産全般についての設置であつてただし従前の場合
 酪農がや中心であるという現実の問題があるわけであり
 ます。そういう意味でございますので一応御了承願いたいと
 思います。

○ 六 番 (辻 田 実 君)

ある程度考慮するということですが名称を考慮するの
 実際の委員の構成の中に入れるのか乳牛と肉とは違
 いますが館山ということになるとかなり接近しておるわけ
 でございます。特に委員の構成については二十二名以内となつて
 おります。つきりしていません。ほかのものについては全部が

はつきりしておりますが、これほどというわけでは内という
ことでも出したのかお伺いしたい。

それからもう一点、任期の問題でございます。公布の日から
施行することがほとんど出ております。従いまして委員の発
令された日、任命された日が統一性がない。その都度かわつ
てきておるといふアンバランスがあるように見受けられる。
そうしたこの暫定措置なり、この条例の中に取られなか
ったか、次の任命のときに統一できるものは統一していく。

こういう形を取るのか、その点について御説明願いたいと思ひます。
・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

従前の館山市畜産委員条例、その条例に基づきますと
御指摘の点で若干問題が出てくるわけでございますが、
委嘱の面で市長は各地区の酪農関係者の協議により
選出されたものも委員として委嘱するといふことでは

ございますので名称は畜産というふうになっておりますが、
先ほど申し上げましたように従前は酪農が中心だった
ということでございます。今後養豚等の問題が出て参
るわけでございますがお話しに出ました委員の構成につ
いてはそのような意味合いも含めて次の委嘱のときに
考慮してみたいと考えておるわけでございます。

。助役（小出武男君）

この条例は従来のあった条例をそのままくへ形式を
かえた形に集約したということでございます。内容につ
きましては、変便の意思がまだないわけでございます。
従いまして、ただいまの御意見は今後の問題として考えて
いきたい。それから任期ですが、これは発令された日から
日を切っておりますのでたとえては二年という二年とい
うことでいく方が事務処理上もよい、あとの人がきます。

まで待つということは運用上にもルーズになりますので
考へ方は任期は任期としていく、こういう方がいいのでは
ないかと考へるわけでございます。

・議長（田中祿郎君）

議案第三十号は討論者略原案通り可決することにより
御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議
案第三十号は原案通り決定されました。

日程第四議案第三十一号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（田中祿郎君）議案第三十一号は討論者略原
案通り可決することにより御意議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よろ。
議案第三十一号は原案通り決定されました。

日定第五議案第十号を上程いたします。

・財政課長（長谷川弘治君）

議案第十号で印刷の誤まりがございますので訂正いた
だきたいと思ひます。四ページ寄付金の補正前の額
一五四八とありますのを一五四八八合計欄が三八五六
と改めていたたきたいと思ひます。それに関連して事項
別明細書の二ページ寄付金の欄で一五四八を一五四八
に改めていたたきたいと思ひます。次の説明の欄も三八六
が一三五八六と改めていたたきたいと思ひます。

さらに二ページ寄付金の欄一五四八を一五四八八に二欄
とも改めていたたきたい。説明の欄も三八五六と御訂
正いたたきたいと思ひます！

。二番（石井正君）ニ、三伺います。二九ページの社会福祉関係で貸し付け金の問題でございます。が低所得者に対する貸し付け金非常に結構な制度であると思います。がたびたび申し上げますように非常に利用者が少い。この間の説明では四人で二万円、こういうことでございすが利用者が少いということとは非常に所得が高くなつて必要がなくなつたという解釈に立ちますれば非常に結構だと思ひますが、そうでなくて何か制度上に問題があつて借りる方が少いのではないか、こういう事に前回も申し上げたのでありますが、この点の把握をいかに行われておりますか、もう少し詳しく御説明を願ひたいと思ひます。

第二点は三ページの衛生費の中で備品購入の自動車購入費三十万円、この御説明がなかつたのでくわしく御説明いたさない。次に三十一ページの尿処理関係でございすが、修正のた

びに、尿処理関係においては非常な費用が出まわっておりますが、現在聞きますといういろいろな故障で、使用不能で修理中であるという、とでまた、ここに莫大な費用がかかっているわけであり、ます。それからもう一点は、水の関係で長い間非常に投資をして参りました、そういう関係でわれわれも係の一人として、何回か現場を視察しておりますが、非常に困った問題と考えております。特に水の関係ですね、現在水のたまり、エ合とい、ます、か、出方とい、ますか、使用に耐えるものが出ておるか、この点の御説明をお伺いしたいと思います。

次に、観光費の関係ですが、御説明により、ますと、観光費につきま、しては、非常にたくさん金がか、余って使わなかったというお話ですが、このように、たくさん金がか、ここに更正されるという、ことは、当初の計画の中で、非常に軽率な点があったのではないか、この間の説明では、そのように私伺ったのでござい、ます。

観光につきましては、館山も非常に力を入れておりますので、できるだけ当初計画された予算は十分お使いになつてお客様に暖かい観迎をするというたてまえが正しいのではないか、こう思いますが、この間の説明では、つきりいたしませんので、もう一ぺんくわしく御説明をいただきたい以上、福祉事務所長（鶴沢貫寛君）

貸し付け金の問題につきましてお答え申し上げます。貸し付け金の利用者につきましては、おおせの通り大へん予想していたより少いのでございしますが、この設置の理由は公益質屋を廃止したために、その救済といいますが、かたがわりというようなことで設置を願ったのでありますが、やはり利用者が公益質屋を利用して、いた人がそのまま利用するというだけでは、ないようでございします。なおその他、市社会福祉協議会の方に委託しております民生金庫

の設置もございませんしその他社会福祉協議会で行なっております厚生資金母子福祉資金等の貸し付けの制度もございませんのでな限度額が五千円でございます。借りる場合の保証人が二名というところでいろいろ研究したのでございますがやはりこの程度のもものは規定しておきませんと現在でもやはりきちんと返済しておらない状況でございますのでこれをくずしたくないということでございます。そのために利用者が少いとは考えておられないのでございまして。貸し付け金制度がほかにもあるということで利用者が少ないのではないかと考えております。

。衛生施設課長（吉田耕一君）

三ページの自動車購入費でございますが先般も申し上げました通り祭壇用の自動車が老朽して使用に耐えなくなっておりますというのが現状でございます。今後祭壇業務を

市が続けていく上に必要であるということから今回中古車でございますが三十万内を計上して購入したい。このように考えて提案したわけでございます。

し尿処理場のいろいろの経費がかかっているということでございますが確かに御指摘の通りでございます。従いまして私どももこの投資の原因というふうなものにつきましては処理水の不足ということがおもな原因となっておるのではないかと考えておるわけでございますが、当初見込みました水量が予定通り取水できなかったという観点からいたしまして、

二本掘り三本四本五本と経費をかけたわけでございますがなお最終的に昨年実施いたしました井戸でございますが当初場水試験を一週間余やったわけでございますがそういう面である程度完全だという井戸屋さんあるいは経験者等の意見を伺いまして安心してその事業を実施いたしました。

て場水を始めたわけでございますが、現在になりますとその井戸一本におきましては、不足をきたす大体予定の半分なつと一か出てこないということで私どももその対策をいたしまして一番最初に掘りました井戸が三百トン程度取水できますので両方使用いたしまして満たしていきたいと考えております。従いまして御質問の水量があるかというところは点でございますが、両方合わせまして八百二十トンの取水ができるかと考えておるわけでございます。し尿処理に關しまして多額の経費をかけております点を私ども足りない点もあったと考へますが、できております施設を十分管理いたしまして今後どういうことのないように私どもも一生懸命管理に當つて参りたい、このように考へる次第でございます。

。商工観光課長（小沢正治君）

観光費関係の補正減額の面について御説明申し上げます。

御承知のように私も夏季対策に関しましては海岸の
各施設関係の工事あるいは補修・減関係につきまして計
画をし見積りを立てるのが大体十一月の中旬から下旬で
三月の議会で予算が承認されまして実施するのが六月
中に事業が進められるわけでございます。

従いまして六月の定例会で予算の補正が向に合わない
という段階でございます。そういう関係から予算につき
ましては万全態勢をしいて多少予算に誤差を生
いても間に合う形で予算を計上しておかなければな
らぬという面があるわけでございます。それと夏の
態勢と申しますのは特に海水浴客が入り込んできた
最盛期においてどのような変化が起こるかわりません。
これに対する対策について予算を残しておかなければ
ならぬという技術面の関係が出てくるわけでございます。

ます。実際問題としては二カ月間を予定するわけですが、いままけけれども二カ月間が天候の状況に大きく左右される面が出てくるということ。例えば賃金にいたしましても海岸清掃が主体でございましてけれども、これも十日早く切り上げるか、八月一ぱいやるかということ。予算の誤差が大きく出て参ります。そういう関係とさらに各施設の整備関係も当初計画したよりも非常にわりやすに上ったという場合に三十キロにわたる海岸施設でございまして、大きく万単位のものが不足が生ずるあるいは残るといふことが出てくるわけでございます。そういった関係で態勢としては御意見の通り観光業務に積極的にサービスをしていって感じで帰っていただくという、とです。するわけではございますが、予算の執行につきましてもは極力節減していい結果を出したい

という反面もあるわけですが、いまして、本年度、この
ような結果を生じた次第でございます。

・二番（石井正君）

貸し付け金についてでございますが、これにつきましましては
質屋をなくして、ここで全部きれいにしてしまつたのでは
因るので暫定的に貸し付け制度を取るといふこと、で始
めたように記憶しておりますが、現在の利用状況から
してはつきりとほかにそういう制度があるので、この
点は少いのだといふことであれば、一体いつまで貸し付け
金制度を続けるのであるか、その点をお伺いしたい。

それからし尿処理関係につきましては問題はやはり
御説明にあるように水の問題で水がないために故障
も起るし非常に臭気もあるし、管理人の衛生上の
問題等すべて水が原因であると私は解釈します。

前回から水については今度は大丈夫だ再び水は出ない
 というお答えはいたしませんという答えを何回か繰り返
 してきまして現在のような状態でございます！

そこで今課長に申し上げてもらうにもならないと
 して、市当局といたしまして、水の問題につきまし
 ては抜本的水対策を考えないと続いているような

経費がかかってくるのではないかと、こういう心配をするわけ
 であります。この点、執行部のお考えをお聞きしたいわけ
 であります。それから観光費につきましては、大体納得
 しますが、経費を節減する、とは結構だと思ひますが、
 趣旨につきました。課長さんも私も同じだと思ひます。そ
 その点、今後とも留意して観光のために計画をされる
 ように要望いたします。以上二点について、

。福祉事務所長（鶴沢貫覚君）

貸し付けの問題につきましてお答えいたします。
ただいまの御意見の通り、この制度を設けましたのは
公益質屋を廃止したために一つのみかえりというようにな
ることで設置したのでございますけれども、そのときの見通しと
しまして、利用者数によりますゆがけけれども、そのとき、

貸し付けの問題につきましてお答えいたします。

ただいまの御意見の通り、この制度を設けましたのは公益質屋を廃止したために一つのみかえりというようなことで設置したのでございますけれどもそのときの見通しとして利用者の数によりますけれどもそう長い期間この制度をやらなくても近い将来に廃止できるのではないかという見通しであつたわけでございます。これは四十二年度の予算にも一応続けるように計上しておりますので四十二年度の利用の状況を見て考慮したいというふうに考えます。

。市長職務代理者助役（小出武男君）

第二点について私から申し上げます。処理場の用水の問題でございますが非常に長い間皆さんの御心配をいただいておりますわけでありましたがあの地区全体が非常に水が少い地帯であるという宿命的なものがございます。

従いまして井戸を三本掘っても結果的に予想水量が出なかつたことは現実でございます。今の状況としましては課長から申し上げましたようにあらゆる手を尽して取水して用水に充当するという方針を取つてあるわけでございますが、一番問題になるのが川の水でございます。これに付きましてはことあるたびに地元とも話し合つておりますが、まともに川の水をくれというのを表面に出すといういろいろ問題が出てくると思います。川の水ですから農耕用水に不足をさせるという、これは絶対にできないわけでございますので、必要のないときは使うという私どもの方、これも表面に出しますといういろいろ問題が出てくると思います。要するに現状ではやはりあの施設をフルに回転した場合には二十倍の希薄には足りないということはいえると思います。

そこで今やっておりますのはフルにやらないで七八分

やっておつて十四五倍程度あとの三〇%、これの用水の確保ということが問題の最後になるわけでございますが、今申しますように川の水、これをフルに使うように工作していくように考えております。以上

。ニ二番（君塚喜三君）二点についてお伺いしたいと思ひます。はいめに三二ページ二項四目し尿処理費の十四節使用料及び貸借材料、ただいま二番議員からもお話しがあり関連するような問題でありますがこのチャーター船、これはいつ頃からチャーターしたものであつか、まずその点を最初に伺いたい。第二点といたしましては、二九ページ二目の児童措置費に関連いたしましてお尋ねをいたしましするがまず最初の一点だけについてお答えをいたしたいと思います。

。衛生課施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。船をいつチャーターしたかという御質問であります。私どもこの船のチャーターについても予算上の関係等にございまして、しかしながらいつまでも汚物をそのままにしておくということもできませんので、お陸上等の捨て場も種々検討したのだけれどもなかなか思うような捨て場もない。どうしても一日も早く市民の迷惑を解決除いていかなければならないという観点から横浜市役所と連絡してチャーターする考えになったわけでございます。

これが毎月の初めでございます。大体五日間でございまして二航海実施いたしまして今回この額をお願いするわけでございます。

。二二番（君塚喜三君）ただいまの問題につきまして今月の上旬チャーターしたという答弁でございしますがその後におきまして一つの例を上げますと、切削の手前の右側に

これは山でございすが、あそこは不法投棄がその後も
なされておるといふ事実があるわけでございます。

この点につきましてもは施設課に對し再三それ以前から
電話をいたし注意をうながしたわけでございますが、その点
についてどのような処置をなされたかその点をお伺いいたし
たい。

・衛生施設課長（吉田耕一君）切割の付近に不法投棄をした
という点につきましても私どもも何人かの御注意御報を
受けておるわけでございます、そうした面につきましてもは
業者に對し對して強く注意をうながすと同時に独自の
捨て場を求めようといふことと私どももともどもその
捨て場に對しては交渉を実施して参つておるわけござ
います。

・二番（君塚喜三君）その点につきましてもは船を早く千

ターしなかったかそうすればそういふことをしなくても済んだのではないかこの点残念に思うわけです。それは了解いたします。第二点の問題につきましてこれからお尋ねをいたしますが過ぎた市会における西岬幼稚園の設置問題に関連してまた昨日幼稚園保育料の値上げ問題に関連をしていろいろ質問がなされ執行部から答弁があったわけであります。ところで御答弁をずっと聞いておりまして何かどうも執行部に保育所というものについて根本的な認識が欠けておるのではないかという印象を受けた。というのも私も館山市の保育所条例そのものに欠陥があるのではないかと。当然これは児童福祉法に準拠して作られたものだと思います。例えば保育所条例第一条にはその目的がうたわれております。

福祉法第三十九条に基くとしてあります。

一かゝ第一項があつて三十九条の二項というものについては全然うたわれていない。それよりも大事なこととは第二十四条について市町村は、こういう義務があるんですという義務制が裏づけされてゐる。ところが館山市の保育所条例についてはそういうものが一つもうたわれていない。

二十四条を朗読いたしますならば「市町村長は保護者の労働または疾病等の事由によりその監護すべき乳児・幼児または第三十九条第二項に規定する児童の保育に欠けるところがあると認めるときは、それら児童を保育所に入所させて保育しなければならぬ。ただし付近に保育所がない等やむを得ない事由があるときは、その他の適切な保護を加えなければならぬ」と義務制がある。ところが市の保育所条例にはそういうものが一つもない。従つて第七条には、右各号に該当するときは受諾を拒絶も

「くは退所させることができる。つたその中に「託児が定員に達したとき」というときには拒絶できるとうたっている。

拒絶したあとのことは何もわかれていない。そうすると児童福祉法第二十四条義務制というものをどういうふうにお考えになるか。いかにも「日々保護者の委託を受け」という「日々」という言葉が入っておる。いかーこれは実施面についてなかなか困難であります。従っていろいろと定員というものを設けておる。それはわかります。

措置一人に対するところの施設の面積、遊び場の面積、三才以上については三十人に対して保母一人、三才未満については七人一人という保母を付けなければならぬという規制がある。上からいつて定員があることもわかります。

けれども「精神は「日々委託を受けて」というところにあるわけなんです。それが市の保育所条例には全く

欠けてゐる。幼稚園との差において片方は文部省の所管であり片方は厚生省の所管である。

片方は教育ではない。片方はといったように違いがあることは認めます。根本的な義務制のことについて一つもふれていない。これがあるならばこの幼稚園問題保育所問題ももう少し進展した解決方法があると思う。

またこうしたところに先日新聞などに報道されたようないまわしい問題がその監督者の不ゆきとどきというようになつてから出てくるのではないかと思うわけです。

根本的な保育所の運営の基本原則をきめたところの市の保育所条例について、ここで再検討していただきたいことを提唱するものです。この点につきましてどのようなにお考えになりますか御答弁をいただきたい。

福祉事務所長(鶴沢貫寛君)

お答え申し上げます。確かに児童福祉法によります

保育上の設置につきましては、原則としてはおおせの通りで
ございます。しかしながら保育上運営につきましては

運営基準というものがございまして、それに従って運営
しておりますし、定員もその基準によってきまっております
わけです。市の保育所条例につきましては、確かに不備
の点もあるようでございますけれども、定員制をいっているた
めに住民の御希望にそえないという事実も実際には出て
きておりますがそれはそんなに多い数ではございません。
父兄等との話し合いによりまして、順次収容している
状況でございます。また定員をふやすということにつきま
しては、施設の問題その他の算定基準の問題があり
まして、ただちに定員をかえるというふうなことは参ら
ない状況もあるわけでございますけれども、そういう点

につきましては、保育所長等と協議いたしましてその問題を解決していただきたいというふうに考えているわけでございませう。

○二三番（君塚喜三君） 福祉事務所長も市の保育条例というものに不備な点があるところはお認めになつておる。こういう点をなぜ改正されないのか根本的市条例例というものが不備の点はこの際御訂正いただいてそうして立派な運営をしていただきたい。この点に対する助役さんどうにかにお考えになりますか。

○市長職務代理者助役（小出武男君） 法律法の問題になつて参りました。法律のたてまえとして国に法律があつてそれに対する規則がありさらに施行令がありすべて法律で定められたことを細部にわたつてきめておる。市町村条例はその制約の内部において一かも法律の範

ちゅう外に出られないわけでございますのでよーんば市の条例になくても国の法律の範ちゅうに当然入るわけでございます。ますので義務制になつておることにについて市町村はそれを受けて市で法律を施行するに都合のいいことを市だけできめていくのが条例つたてきましてございます。市の条例にないからといって義務制を免除されるとかいろいろ国できめてあることを除かれることは当然できないわけでございます。

ただ現行施行の段階においてもう少し細かく規制してあった方がいいのではないかというお話しでございます。したうあかるわけでございますがそういう点について不備な点がございます。ますれば今後改正していく。こういうことに考えております。

・ニ番（君塚喜三君）当然、児童福祉法の制約を受けておる。従つてそれに準拠していくのだからして市の条例というものは簡単でもいいのであるとおっしゃるけれどもこの問題は

基本的な一番肝心なところが骨抜きになつてゐるという
ことなんです。これはすみやかに改正してそれに準拠した建
費をしていただきたいことも要望します。

議長（田中祿郎君）暫時休憩いたします。

午前十二時七分

休憩

午前十二時二十三分

再開

議長（田中祿郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。
十八番（西村真次君）最終の補正予算ということでござい
ますので一つだけお尋ねしたいと思ひます。

歳入の面におきまして総額二千二百三十六万一千円という
減額が現われてきたわけでありましたが私も過去四年間
何回か補正予算の審議に當つてきたわけでありす

けれども、今回のような二千何百万という大きな減額は今までなかったのではなにかのようにならざるを得ない。

従いまして歳出の面におきましては同額の減額がなされ、ておるわけでありすが、この減額の比較的大きなものの中に市民税の一千万程度ですか、なお地方交付税八百万位減つておるようですが、これが当初見込んだ額と違つてきておる。その原因はどういうことであるか、その原因についてお尋ねいたします。

。財政課長（長谷川広治君）お答へ申し上げます。減額の理由でございすが、交付税につきましては、私どもの考へ方としては一応前年度の実績をおさへまして、国の予算の伸び、そういうものを勘案して予算計上をしていくという、ことを考へておるわけでございますが、四十年度と四十一年度におきましては、国勢調査の関係から人口の

減というふうな事もあつてあります。

なお国の予算の審議過剰におきまして、固定資産税にからみます負担軽減というふうな関係から国が別途措置をいたしまして地方財政関係の計画を変換更したわけでありまして、その結果交付税としては八百八十九万三千円、減額を見たわけですが、そのかわりとして二款の二臨時地方特別交付金というものにふりかゝつたということがおもな原因でございます。

市税のうち市民税につきましては私ども予算編成時期におきまして四十年度の調定実績をおさまして、国が約七%伸びるということでございますが、小都市におきますと給与所得者が多いということ、それはずなわけ、市民税の負担の割合というが自然増徴の割合が多いということでございます。私どもは、

役所関係でも市民税の負担は約一割程度としてゐるわけ
でございまして、そのベースアップ等を考えまして、一割ちょっと
伸ばしたわけですが、ベースアップ等がいろいろの
関係から翌年の三月支払いということになりましたので
そういうものの減額が一部入っておりますが、四十一年度
に入りまして、地方税法の改正が大幅にあつたわけで
ございます。それと予算編成時点との相違、これの差額が
八百万程度と考へております。その差が千二百二十六万といふ
減額の数字になつたわけでございます。

。一八番（西村 眞次君）詳細につきましても、ちよつとお伺いした
だけで、解できませんが、こういう結果が出たことは間違
いない。それはそれとして、歳出の面におきまして各項目に
わたつて減額がなされておる。その総額がやはり同額の
二千二百三十六万余になつておる。

これは当然のこととありますけれども各項目の減額と
いうものが説明を承りますと一々やるべきはずのもの
あったのが予定がかわってきたとかあるいは設計の変更
があったとかあるいは補助金が減ってきたとかいろいろ御説
明のような理由があったように思われるわけでありますか
予算のたてきえと申しますか、その点で何となく私どもには
ふに落ちない気がいたすわけであります。

何か歳入の面で足らなくなった。それを歳出の面で同額に

これは当然のことですけれども、各項目の減額というものが説明を承りますと、一々やるべきはずのものであったが予定がかわってきたとかあるいは設計の変更があったとかあるいは補助金が減ってきたとかいろいろ御説明のようない理由があったように思われるわけでありまして、予算がたてまゝと申しますか、その点で何となく私どもには、ふに落ちない気がいたすわけであります。

何か歳入の面で足らなくなった。それを歳出の面で同額に減らすためにやむべき事業をやらずに同じ結果を出している。予算の執行がまゝきり反対になつてゐるのではないかという疑念が持たれるわけであります。

御答弁を伺えばそうではないということになります。当初予算を立てるときにあつた面、詳細に検討されておたわけでありまして、相違な御苦衷があつた

ことはよくわかるわけでありますけれども、市民税においても一千万以上の見込みが違ふという、とは本当に検討されておるのか、この点だけでも疑問があるように考えられますわけでありまして、新年度予算もすでにでき上っておるわけでありますけれども、やはり来年度の予算においても、こういった見込みの違ひがあるかもしれません。それは考え違ひである。

あるいは状況が違ふからやむを得ないといえればそれまでであり、すが十分慎重に検討した結果、しかも予算の特別委員会を経てなお議場において議決しておる。この予算が何か適当に総額を出してきて、途中でどうも事業の変更があって結果が如何に変わった。

それで済ますされるかどうか、この点に疑問を持つものであります。が、この点もう一度はつきりしたお考えをお聞かせいたしたいと思います。

。財政課長（長谷川広治君）お答え申し上げます。

歳出の減額のおもな理由といたしましては、市民センターの工事延期に伴います工事費の関係で二千二百九十万円の減額をいたしておりますが、それが大部分の額でございまして、他の費目につきましては、それぞれ現在の時点から考えますと減額できる数字があらわでございまして決りて歳入が少なくなったからそれに歳出を合わせたというような気持は毛頭ございせん。

一つ一つの面を検討して補正できるものは補正をし、追加すべきものは追加し、十分議会の意思を尊重して執行していくということにかわりございせんので減額のおもな項目を申し上げましてお答えにかえます。

。八番（西村真次君）この問題は話し合いをしても仕方がないかもしれませんのでこの辺で打ち切りますけれども

予算編成に当りまして、常に慎重にお考えをいたして、健全な予算を組んでいただきたい。こういうことを最後にお願ひ申し上げまして打ち切ります。

○番（辻田実君）ただいま八番議員の質問に関連してさらにそれらの点について具体的に細かく伺いたいと思います。

まず歳出三ページ予防費の備品費自動車噴射式注射器購入三十二万円これが購入されなかった。

この理由は八番議員がいったような形の中で自動的に可せされたのかどうか、この前の説明ですと購入が遅れて間に合わなかった。そういう説明がされましたが、これは子供を持つ親にすればこういうものを入れてもらって能率的にスムーズにやってもらいたいという願ひはだれも持っております。この点についてくわしくまず第一点として

御質問いたしたいと思ひます！

次に三三ページ畜産費の中で一般財源から三百万の減になつております。特に大きいのは小規模草地改良事業費とか緊急飼料作物増産これらについては国の補助金、県補助金の関係においてこういうことであつたわけでございますけれどもこの事業については私はかなり綿密な補助金がありるとかありなないといふことは相当確固たる連絡なり内示。そういうものがあつてやはり一船予算に計上されるべき性質のもつてはないか。こういうふうに思ふわけでございますけれども、この点についてはどうか、これが二点目でございます。

三点目には三四ページの沿岸漁業の事業補助並びに船形港、富崎港の修築に対してともに百万ずつ二百万の減額になつておる。こういうものについて前項の畜産費と同じような形でもつてやられてくるということになると問題があるわけでございます。

この点についても一八番議員と執行部と討論された概念的なものも基準にして具体的に説明願いたいと思います。

それから三三ページ農業振興費の十九節農村青年グループ育成これが二万円減額になっております。私はこのように次の時代をになう農村青年がいろいろな研究活動をやっていく上において当初予算で六万円計上されていながら、県の補助金が一万円減ったから市の補助金も一万円減らして二万円減った、こういうことをやっていったのでは若い青年に対して不信感を生じさせるでしょうし運営に支障をきたす。それも単に研究グループだけでない、特に山本館野の構造改善に参加しておる優秀な青年も知っておりましてそういう人たちに對する影響は大きい。県の補助金は減らされても市の一般財源の中から二万円を充ちても当初予算に組まれたものは組んでやるという配慮がなされていかるべきだと

思う。農村青年グループ育成費が必ず県の支出する補助金と同額でなければならぬかその規定があるのか規定がないとするとこの減ら一オはあつた言葉でいうと官僚的実態に即さない減額である。こういう点については認めがたい。べういうふうに思うわけでございますがこの点についてはどうなるか御説明願いたいと思います。

それから三セブーじ街路事業費の中で九号線のものでござつたといふことでございますが、この点については工事が遅れたといふことでございすが予算の面からかそれとも出張について土地の買収がでずなかつたものが、これは懸案事項になつておりまして現在利用度々も高まつてきておるときから

この理由が一般財源の収入減に伴うしわざわざそういう観点から真想を明らかにしてもいい。以上同じような質問でございますけれども五点について矢張り質疑の中で行

なわれた週定に立って具体的に御答弁いただきたいと思
います。

保健衛生課長（池田亮山君）予備費の備品購入費の
減額でございますが当初予算を編成いたしますときに
カタカタを取り寄せましていろいろ検討いたしまして
県下各市の状況もいろいろ聞き合わせまして購入に踏
み切つて予算に計上したわけでございます。その後この
機械を實際にメーカーに持つてこさせまして、實際に実施
したわけでございます。その際に私もこの機械を使い
まして、支障のあることを発見したわけでございます。
まず第一に年令層によつて注射量をかえなければならな
い場合、一々噴射量の調整をしなければならぬ。それは
はなはだ手数を要する。機械の目方があまりに重いこと、
それからもう一つは皮下注射をする場合は比較的適当で

あろうというところが想像されますが、皮革内注射 B・C・G 等の接種を実際に行なったわけでありましたが接種いたしましたとき、血液があるという現象を見たわけでございます！

予防接種に当りまして、そのようにならざる機械を買うことについて、さかちゅうちを感いたわけでございます。この問題は、いま少くも研究していかうらにという考え方でこれを取りやめたわけでございます。なお当初に盛りまして三十六万の機械は自動噴射器であります。足踏みのものが三十六万、電動式になると六十万から七十万ということが出てきたわけですが、それほどの金額を出して購入したものがごく特定の注射にのみ使用するということであるならばという考え方から取りやめたわけでございます。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）まず畜産業業務費の問題でございますが、小規模草地の改良事業の要託料百万円程度

の減額でございます。当初計画いたしました事業でござい
ますが市内で十六ヘクタール程度の草地改良事業を行な
いたい。そうして江田の十町歩、稲三町歩、山本地区三町歩
という予定で当初予算を編成したのでございすが、
結果的に見まして事業の実施が江田の三町歩のみに
とどまったということでございます。

もちろんこれは受益者の自発的な事業でもございますので
強制的に市の側として実施できませんのでそういう結果
が出たわけでございます。従いましてそれに伴います
要託料が概五十万程度減額になったという次第でござい
ます。それから緊急飼料の方でございますがこれは四十年
度までの県の補助対象が例之は草刈り機とかあるいはカッター
乾燥機、そういうものの補助金が小型にまで四十年
度まで補助対象外としてあったわけでございます。

それが四十一年度から補助対象の変更から今度は大型機械についてのみということにかわつたわけでございます。

従つて本市におきましての百三十万程度の事業費は小型を対象として予定したものでございますので、本年度については緊急飼料作物を全面的に廃止するという結果になつたわけでございます。

次に漁港関係でございますが、まず水産振興費におきまして、沿岸漁業の構造改善事業費で百万円減額になっております。これは当初予算におきまして船形の魚床、布良の投石、西川名の岩爆爆、この三つの事業を予定したのでございます。その後県、その他の事業費のワケ等の関係もございまして、船形の魚床、魚床、布良の事業費を組んだわけでございます。これが九十万にとどまつた。布良投石については当初七十五万の予定が七万さらに西川名

百十万万予定が五十万のワケにもなった。以上申し上げましたような結果に基きまして約百万程度の減額をせざるを得なかった次第でございます。

それから船形と富崎港の負担額金の問題でございます。まず船形港の修築工事費の事業費が当時千五百万の事業費を予定したのでございますが、これが千四百万円の事業費にとどまった。富崎港におきましては千四百五十万の事業費を予定したのでございますが、これが一千万の事業費にとどまった。これは県その他の事業費のワケにおきましての減額でございます。それに伴います百万円程度負担金が減って参つたという次第でございます。

それから青年グループの問題でございますが、ただいまお話しいさむともだと思ひます。予算上げは先ほどお話しいさむいたしました通り当初県の補助金が三万円市が同額

三万円を含めまして、六万円の補助金を予定したのでござ
います。が県の予算算のワケ等の関係から二万円に減額さ
れた。でありますので予算上たてまえ上いろいろの問題が
ございましてけれども同額の二万円を租みまして総額二万円を
減額したという結果でございます。青年ケループの問題につい
てはいろいろの観点から考えられる問題でございすけれど
ども予算上のワケの結果によつて、このような措置を取つた。
自後の問題としましては、青年の問題は別の意味
で今度後いろいろ面で検討する必要があるのではないか
うか。かようなことを一応考えております。

・土木課長（新井重助君）土木費の街路事業費でござい
ますが、鏡浦亭から市役所の通りの改良工事でございますが
これは先ほど中止というようなことを申されておるよう
に思われますがこれは本年度執行いたします。

この中へ更正でございしますが十七節の公有財産購入費で
百十万ばかり更正してございしますが当初予算に計上いた
します際につぶれ地の坪数を過大に見積ったというわけで
ございます。今回実測の結果くれだけいらなくなったのだ。
地元へ協力がございましてつぶれ地代金の非常に安い面で
まとりましたので、このような減額となったのでございま
す。なお工事請負費について七十万の追加でございしますが、これは
舗装をやっております前提として路盤工事をほどこして
いきたいという考えで七十万円の追加ということではござい
ます。二十三節の補償金でございしますが、これは当初見込みま
したより地上物件が多かったということで四十二万七千円の追加
でございます。

一〇番（辻田実君）大体内容はわかりました。

私はこれで二つの観点から再質問いたします。

一つは注射器の問題なんかについてはいいいものがあれば、
ああいう予防注射等については改良していただきたい。
農村青年の問題については将来ということも御答弁いた
だきまいらうです。解いたと思います。

ただよくでお伺いしたいのはまず緊急飼料作物増産事業の
中で小型の機械が補助対象にならなかつたので全面的に
削除になつた。こういうことが途中補正しなければならぬ
ということとは非常に行政的な責任というものが出てくるつで
はないか。助役さんにお伺いしたいが全面的に廃止になるとい
うことがわからなかつたということですが、この経過をくわしく
御説明願いたいと思います。

もう一点は沿岸漁業の点につきまして、御答弁からいま
まずと予算のワケがくれだけになつてしまつたので多分
少くなつたということでございますが、現在物価は日々上昇し

てゐるわけでございます。当初予算より事業費が少いといふことで工事そのものについて支障が将来起つてくはないか、そういう点、心配があるわけでありまして、くつ点について自信あると思ひますが、その見通しについて簡単にお願いいたします。

市長職務代理者助役（小出武男君）予算編成当時において翌年度のそうした大きな事業の内容が変更がわからぬというか、ずさんではないかといふことでございますが、私も細かひとは勉強しておりませんでしたが、確かに普通通りでしたら、大体予算編成時点には県と事務折衝があつて、かかるうちに予算を組むという方が普通通りなてまえてございます。こういう場合は非常に少いので異例なことではございます。ずさんといへばずさんでございますが見通しがつかぬかつたといふこと、か申し上げられないと

思います。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）お答之申し上げます！

いろいろ御心配の点でございますが、岩爆にしても投石事業にしても事業費が少くなることはそれだけ事業の規模が小さくなったということとは当然なことでございますがそれによりまして、事業そのものが効果の面でなくなったというふうなことはございません。

議長（田中祿郎君）午前の会議はこれにて休憩いたします。

午後零時二分

休憩

午後二時一分

再開

議長（田中祿郎君）午後、出席議員数二十七名

休憩前に引き続き会議を開きます。

十号議案に対する質疑を継続いたします。

一番（吉田勇治郎君）簡単に福祉事務所長並びに市長さんに伺います。二九ページ児童福祉費の中の児童措置費についてお伺いいたします。

ここに追加予算が出ておりますが、予算委員会とき、千四百有余万円の措置費がどう扱われているか、措置児童というものはどういう角度から選定しているかということをお伺いしたうでござります。

その答弁の中に厳正に取り扱っておる、なお各園に対して通達を出すということも答弁されておりますが、予算委員会報告書にも明らかにっております。

この問題につきましてはどのような通達を出して今日に至っておるかということをお伺いいたします。

現在たまたま何か不祥事件があったというのを聞いて

おるのでございます。たまたま昨日は本人の弁明がござ
いましたか本人の弁明を聞きますと、何ら私たちとして、地域
のために御苦勞なされておるという点以外に何もないうに
お伺いしたのでございますが、かような点等はどうか
おりますか、一オ的に本人とお話しばかり聞いたのではよくわ
かりませんので、その内容を承わりたいと思ひます。

。福祉事務所長（鶴沢貫覚君）お答え申し上げます。
保育所の入所についてどのような通達を出しているかという
ことでございますが、これは広報に保育所に入所するに
は、こういう条件のもとに入所できるのだということに住民
の方にお知らせしております。

実際に入所に当りましては、入所申請書を出していた
だきまして、それに対して入所が適当であるかどうか
ということ審査いたしまして、それから入所の手紙を

取っております。それから新聞紙上で不祥事件と申し
ますか問題が出てきておりますが、これは保育園の園長
と父兄との連絡が不十分であつたということが大きな原因
だと思ひます。この点につきましての福祉事務所として
の指導にある程度不十分な点があつたことは認めら
るでございしますが、福祉事務所が手落ちがあつたのでは
ないかということは一入所決定のときにおきましてもう少
し分に調べたところ、この事件は防ぎ得たつではないかと
考えられます。なお保育所としては家庭に十分
連絡を取ればこうしたことには起り得ないでござい
ます。こうしたことは保育所の運営基準にもうたわ
れて所長の義務にもなつております。そういうことを
怠つたということとは園にも手落ちがあつたことは認めます。
このことにつきましても、通園してない子供に対して長期

に措置費を支払ったという事実が発生しているわけであ
る。でございます。この点につきましては、調査しました結果
その時日に、さか上りまして措置費の返還を命じており
ます。なお今後こういうことのないように各所長を招致いた
しまして十分注意をうなづいております。

市長職務代理者助役（不出武男君）　ただいま吉田議員さん
の質問でございしますが、所長から申し上げました通り
今回問題につきましては、市が委託の責任者であるとい
う立場におきまして、非常に調査が不十分であったとい
うことは認める次第でございます。

話題になりましたから市は非常に心配して早速保育
所長会議を開きまして、こういう問題ができたがどう
したのかということを中心にして各所長に注意を喚
起いたしました。はつきり申し上げますが、

農豊房の所長にもきていただきました。嚴重その内容を徴し、その時点では、けろりした結論は出ませんでした。が調査しております。さらに二月二十日県と市が共同で現地調査をいたしました。第二回目には二十二日と思いましたが、やはり県と市が共同で調査をした。

こういうことをいたしまして、その実態について確認をきていくわけでございます。要はたゞいま所長から申しましたように保護に欠けている者の数が非常に誤算があったということでございますが、話題に出ておりますように四月から幼稚園にいらる子供が左籍しておったというような事実。さらに二人ほどございまして、もちろん二人は途中でございますが、一人は十一月から欠席しておる。

一人は七月から、この三件がございました。総体で月数にすると二十二月位、月数になります。が、そうした誤差はつきり

いたしまして、これに対する処置につきましていろいろ
県の意見を聞きまして、これは結局所長からいまし
たように家庭と園との不連絡さらにそれを確認し得
なかつた市の責任ということなどが一諸になつて、こういう
誤差が出てきておるといふことに認識するわけでござい
ます。事実判明した以上、これの該当額十三万五千円位
になつてますが、これは三月に精算をいたしまして、処置
いたしたいと考えております。

精算と申ししましても言葉を返せば返納ということになります
が、三月にそれだけの金を調整して精算する。さらに市の方
から保護者に対して保育料の還付をしなければならぬとい
う、こゝで金にしますと二万二千円位になります。これは
当然市から還付する。精算事務に入りまして処置したい
と思ひます。今後、処置といたしましては、現実にそういうこと

を行ないます。反面所長に対しても十二分な警告、注意を加えまして、そうした点の再びないことを制約されておるわけでございます。いずれにしても園外では常時住所の確認をしても長期に休んでおる者があれば園から父兄に話して、そうして処置をすべきのが正常な姿であるにもかわらず、一年以上もそういうものがあつたということは、これは園として責任もございませんし、また監督者としての責任ももちろんあるわけでございますが、こうした点につきましては、今後十二分に注意いたしまして、そういうふうにとつないようにしていきたい。かように考へておる次第でございます。

○一番（吉田勇次治郎君）ただいまの説明内容がわかつた。ようなわけじゃないようなことでございますが、それはさておき、まして決算委員会あるいは予算委員会等に出た意見書

というものはどういうふうに御解釈になつておるか、特別委員会等の報告というようなものはどうやって市勢力の執行に當つて施行されておりますか、その点についての考へ方をお伺いいたします。

・市長職務代理者助役（小出武男君）予算委員会あつたいは決算委員会を含みますが、市会からうそつした決議によつて出されます。御意見につきまして、もちろん十二分にその線にそつていくことに協力をしてある考へでございしますが、たまたまこういう面で若干のそごができたことは申し分けなんでしょうが、委員会市会の議決によつて市に寄せられた注意あるいは勧告というものにつきますしては、十分その線にそつて行なつていくということにはかわりございしません。

・一番（吉田勇治郎君）特に関連がございますのでお尋ねさして

いたしたいと思います。昭和四十二年度の予算委員長報告の中に福祉費に対して、こういうことが書いてあります。「委員会といたしましては指置児童の決定に当っては厳正にやっていた」と同時に保育園の運営についても通達の趣旨を体し、慎重に運営されるよう強く要望いたしました」ですからこの意見を主管課長はこういう意を体してどうしようかなと通達を各保育所に出してあります。か。その内容をお知らせ願いたいと思います。

福祉事務所長(鶴沢貴寛君)お答えいたします。ただいまの予算・審査特別委員会におきます意向というものは、園に対しては別に文書では通達しておりません。ただし保育園長会議を開きまして、その席上でそういうことについては上げてあるわけでございます。

一番(吉田勇治郎君)

厳正にやっていただきたいという年度当初やったものが、こういうことでは議会も特別委員会も何にもいらないということに相なるのでございますが、これを論じてもしようがございせんが、いさし議会もあり、方を尊重されなければならぬと思ふのでございます。そこでこの予算はそういう返還金十三万有余円の変更が出てくると返還金が無かつたら、数字はどの位になりますか。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）　ちよつとおっしゃる事がわからないうでございしますが、事実の発生した時期にさか上り措置費の返還を命じましたので、それ以外にそういった事実はないというふうに考えております。

・一番（吉田勇治郎君）　当然そうでなければならぬと思ひます。しかし、たゞ間違つた不合理なことから出たことで、普通の状態におれば、人員を報告した通り聞いておれば、予算と

食山市議金
いうものが追加予算がかわってくるでしょう。それが聞きたい。
わからないことがないでしょう。

・福祉事務所長（鵜沢貫覚君）結局措置費は実際の
人員によって支給いたしまし^{すの}た^すだいま申し上げま
した返還金の金額は当然この額から除かれるということに
結果的になると思います。

・一番（吉田勇治郎君）そういうことですよ。話しは簡単ですよ。
だけでもよってきたものがどこにあるかわからない。

もう一つお伺いしたい。現在までの調べた方法をもう少し的確
に御報告願いたい。必要があれば調査資料を文書により
配付していただきたい。いかがでしょう。かできるでしょう
できないですか。

・福祉事務所長（鵜沢貫覚君）

申し上げます。私の方から調査いたしました結果は御報告申し上げますけれどもこれを文書にて配付するといふことはちょっとできないというか遠慮をいただきたいと思つておわけてございます。

調査結果を申し上げますと二月二十日に安房支庁、熊井課長、大熊社会係長、川上主事、福祉事務所から横溝所長補佐、山口係長、豊岡主事、これが出向きまして実際に調査したわけでございます。

その結果菊地一房、これが昨年の当初から館山幼稚園にいておりまして豊房保育園には通つておらないという事実がわかつたわけでございます。それから二月二十二日さらに調査に伺いましてその結果菊地一房の妹、菊地隆子、加藤守男^雄の二人がやはり長期に休んでいることがわかつたわけでございます。その結果菊地一房は昨年の四月から今月の二月

まで措置費として一月三千四百九十円、はじめは三千三百十円でございす。その後かわつております。三万四千七百四十円、

民間施設調整費というのが出ております。それが八百三十円、合計三万八千三百二十円、これが菊地一房の戻入させるべき金額でございす。菊地隆子昨年十一月からきておりませんので、これが四ヶ月分三万二千六百円。加藤守男、これが昨年の七月からきておりません。六万四千二百四十円、この三人の合計額が十三万五千六十円になります。

それから納められております保育料でございす。これが納まっておりますので、その分を還付するわけでございす。それがその還付金が菊地一房八千八百円、菊地隆子四千六百円、加藤守雄九千二百円、合計二万二千六百円を還付すると、
いうことになっております。

・一番(吉田勇治郎君)

ちよつと伺いますすがきていない人がこの金額出して納めていた人ですかどういふうに把握されておりますか。

一ぺんもきていない人が負担金を納める人ですか。どういふ方法で納めておりますか。その結果を三人について聞かーていただきます。

・福祉事務所長(鶴沢貴寛君)きてない人がどうして保育料を納めていたかと申しますと従前は保育料と措置費とを差し引きまして園長が納めておったわけでございますがそういうことはいけないうことで昨年からかえまして、差し引きはやっておりませんけれども、結局徴収は園長にお願ひしておるわけでございます。そういう関係で徴収した分についてはやはり園長が市の方に納めておるわけでございますけれども、従前の慣例といえますか。そういう関係で園長がたてかえて納めていくということになつてゐるわけでございます。

。一番（吉田勇治郎君）なかなかうまい答弁でございます。

そういうことは認められるようで実際には認められない
ものでございます。ということを前提に申し上げたいと思います。
こういったことがよそにも園長さんがたてかえている現実がござい
ます。が、ほかに私立の保育所がこういう問題が起きてしまっ
て調査したことがございましたか、ほかの保育所はどうですか。
こういうケースはございますか、それから本人のきょうのお話
しでは定員六十名以外に十六名の人がおる。この点は非常に
私頼まれたから取ったのでこの点はわるうございましたという
謝罪がございました。

これは福祉事務所はいいですね。こういうことをやること
は監査してその結果は出てないではないですか。

。福祉事務所長（鶴沢貫寛君）ただいまのお話は私的の定
員外のことでございますけれども、保育所は定員に余裕が

あった場合には、園長が私的契約児として措置児以外の児童を預っているということになっておりますが、定員をオーバーした場合にそういうことはやっていけないということになっております。しかし実状を調査しました結果、各園ともこの点では定員オーバーして私的契約児を入れてあるのが現状でございます。

・一番(吉田勇治郎君) 結果としてどうですか、いいですか、わるいのですかということをお伺いしたい。

・福祉事務所長(鶴沢貴覚君) 私の方としては、定員外にそういう契約児を取ってはいけないうふうに行行政指~~針~~しております。

・一番(吉田勇治郎君) 議会では本当のことをいってくれないと議員というものは本当のあり方を教えていただいて、その上から出てくるいろいろな発言をするのがわれわれです。

本人はその点について非常にわるいことをしたのだということをお認めになつておるにもかかわらず、あんたの方では調査の内容が御説明があまり不親切ではないかもう一度伺います。こつ内容について調査の結果も御報告願いたいと思います。福祉事務所長（鶴沢貫覚君）私的契約見うことをつままして御報告申し上げませんで、たりけれども調査しました。結果確かに十六名が定員外の私的契約見は在園してあります。

一番（吉田勇治郎君）ばつばつ出てきまして調査したものと對して調査事項を誠実に本然のあり方を議会に報告できないということはまだまだ福祉事業というものはどういうものが在在しているかわからないといつても過言ではないと思う。ほかの私立の保育園の監査の結果はどうかということは一言も出ていない。ああいうことがあつたら全部に

わたって見るべきだ。聞くところによりますと、こういうもつて
国が八割県が一割市が一割だから市には関係ないのだと
いうことをいつておる。午前中君塚議員さんがいわれたように
なんで市に関係がないか。市は関係が大ありだ。

ですから誠意が本当にあるならば各所を平等にお調べ
になるのがこれやり方ではないか。ほかはどうですかと申し上
げてもあるでもない、ないでもない。福祉事業だから立派に
やっているものと信じておりますが、しかしあんなが予算市会
で答弁したことが現実には、に現われてきておる。

私的児童についてもいろいろ問題が出てくると思う。

定員六十名プラス十四名の私的があったならば七十四名の
経費を使っておれば何ら問題はない。しかし六十名の
定員の経費で運営していたらあなたはどうする。

運営面の監査の結果はどういうふうになっておりますか。

お知らせ願いたい。

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君) もちろん措置費につきまして市費を支出しておりますので市がこれに関係ないということに申し上げたことはございません。それからほかの園の調査ということでございますがこれはほかの園でも私的契約児童を取り扱っていると申し上げました通りやはり同時にほかの園も同じように調査した結果がそういうふうに出てあるわけでございます。

それから定員外につきましては措置児童に対する一々寄せと申しますかそういう事実は監査の結果出ております。

というのは六十名定員の場合六十名で給食・保育の関係費そういうようなものも支出しているわけでございます。

実際には七十名七十六名の運営をやっているわけでございますから結局基準通りの支出がされていないという結果

になつてゐるわけでございます。

・一番（吉田勇治郎君）関連質問でございますから時間を取りたくないのですが、監査の結果をばつばつ出すことは不親切だ。私たちも責任を感じて市民に対する本當のあり方をどくて聞かれた場合でも説明できることが必要なんです。最後に申し上げますが、監査の結果をもう一度、今申し上げた中を整理して実態を本當に正直なところを教えていただきたいと思ひます。

それで私の質問は終りたいと思ひます。

・福祉事務所長（鵜沢貫寛君）それではこの事件につきまして、市福祉事務所の調査いたしました結果をもう一ぺん御報告申し上げます。

二月二十日と二月二十二日に調査いたしました。その結果先ほど申し上げました通り二人が長期に休んでいることがわか

たわけでございます。もちろんこれは園だけの調査でなく、保育園に入所している児童の家庭を全部訪問いたしました。その結果わかったわけでございます。それから先ほど申し上げました私の児童が十六人定員外にあったということでございます。それから私の契約児の徴収金、これが歳入化されていないということでございます。

その結果福祉事務所が取りました処置として先ほど申し上げました措置費の返還それから保育料の還付それから私の契約児十六名は定員を起えている人員であり、定員超過は県下私立保育園共通のことではあるが、こうしたことはいけないということを強調いたしまして、善処を求めてあります。以上でございます。

一番（吉田勇治郎君）あなたはもう一つ大事なことを落したでしょう。経理の内容についてそれが報告の中に入っていない。

よろしくございます。もう一つ本當のことを教えて下さい。
この八千八百円、四千六百円、九千二百円返す人に対して、あんた
は本當のこの金を出してありますかと伺いましたでしようか。
福祉事務所長(鶴沢貫覚君)これは本人から出ている金で
ありません。

一番(吉田勇治郎君)市長さんに伺います。いろいろと本件
について本當にお伺いしても誠意ある調査の結果報告が
ございませんが、一応誠意ある調査の結果を承りますか。もし
今後こういうようなことがあった場合等はどうか、その
前に本件に対してどう実態を把握してどう処置していくか
これで私の質問を終わります。

市長取務代理者助役(小出武男君)御質問に對しまして、
はきりしたことがないという御意見でございましたが私どもの
手落ちも認めらるるんですが、考へ方は福祉事業でございますので

あまり会計問題に突込んでいってやるということがどこでもやらないということがこういう問題を生んでおるのではないかと思うんです。もちろん仕事の仕事でございますので、要するに市としては安心して委託をするというのが福祉事業の前提であるというふうに考えまして私どもの方で調査しますつばいいわゆる処置費の運営管理どういうふうに使われているかということが調査の重点でございます。県の方は主として会計という面にある程度突込んでやっておるようでございますが、市としては行政的な指導管理ということとで今まで来ておったというものが実態でございますため、にたまたまこういう問題が出た点については今後もう少しく深く常時注意しなければならぬというではないかという感を深くした次第でございます。

不幸にして本件が出ました以上はもちろん今後は各保育所

につきましてもそういう気持ちを持って指導をしていくということ
がまず第一点、それから豊房保育所につきましても四月
になるかもしれませんが精算において結果的に戻入してもら
うということにしたいと思います。さらにこうした皆さんに御
心配をかけるような事態が起ったことに対しては園長自
体にも責任があるという考えのもとに本人も非常に自責し
ておることも認めますので今後再びこういうことのないよう
に厳重な注意と警告を与えていく。こういうことを市は取
りまして今後運営管理をしていきたいということをこの際
改めて申し上げます。

○一番（辻田実君）関連して質問いたしたいと思ひます。
ただいまの質問で全貌がわかったような感じがいたしますが
二三わからない点がございますのでお尋ねいたしたいと思ひ
ます。まず第一に三人の場合措置児童の中のA・B・Cとあるが

完全措置児童か不完全措置児童かあるいは私的契約
 なつかお答えが出ていますようですが、明確にされておらないので
 その点について、それから八千人百円、四千六百円、九千二百円
 これを返すということですが、返す根拠がわからないので、この点
 についてどういう形で返すのか帳簿上返すのか実際には
 十三万五千円返してもらわなければならぬけれども、こ
 から返す分があるということでしょう。この点が不明瞭
 でございますので、この点について、まず二点だけ。

・福祉事務所長（鶴沢貴覚君）お答えいたします。

三人とも措置児童でございます。菊地一房が三才以上児

あとの二人が三才未満児それから還付金の問題でございます
 が、一応措置しなかったという前提に立ちあけてございますので
 措置費はもちろんです。ここに返してもらつて、それに伴う保育
 料ももちろん返すかということが私たちに考え方をございます。

一〇番(辻田実君) だれがだれに返すかということを聞いて
あるわけですが、この問題如何によつては非常に悪意
といふか犯罪的な問題もからんでくるのではないかと思つたわけ
でございまして、実際のには本人から取つてない。十三才にバーの中
から差し引いてやるかだれがだれにどういふ形で返すか、という
点をけつきりまゐつていただきたい。

・二三番(中村省吾君) 今つ質問に関連いたしまして、所長つ答
弁で納得しかねるものがある。一〇番議員が聞いてある中でも
やはり八千八百円四千六百円九千二百円というようない性格が
よくわからない。ですから菊地一房は自己負担として幾ら
出すのだ。それはどういふ方法で徴収する。こういう形で
運営するのだ。徴収されたものはどういふふうにして市に納めるか
その総額がくるのか、そういうことを正式の場合にはこうなると
ところが今回場合はこうなつてあるのだということを説明して

もらいたいと思います。

福祉事務所長（鶴沢貫覚君）父兄負担の保育料は

一応父兄が納入するということになっておるわけでございます

けれども納入の方法を一応園長に頼んでいと申しますか、

園長を通じて市の方に納めてもらっておるわけでございます。

ですから園では徴収袋といいますが、そういうものを子供に

持たせて毎月父兄から取りまして、それをまとめて市の方に

に納入しているわけでございますが、先ほど申し上げました

ように前には差し引きで措置費の中から差し引いて全額

市の方に納めていたという従前の例があったわけでございます

ます。昨年の四月からそういうことを改めて納入するの

園長に頼んでありますけれども、集まっただけを市の方に

納入してくれ、ということに頼んでおるわけでございますが

従前の例にならうというのか、従前通り全額市の方に納めて

いるというのが実情でございます。

○番(辻田実君) その点については私としては大体わかちたような感じがいたしますので、これは問題があるかと思ひますが、了解いたします。

それから定員外の問題、これは本論になるわけでございますが、二九ページの見童措置費の委託料ですけれども、児童福祉法の五十一条によつて出されるわけでございます。従いまして定員外のものがある中に、こういう形でやることかいか、児童福祉法によりますと二十四条の本文に規定する処置を取つた場合に支給するということになるわけでございます。そこに定員外があるということ、これはそんなに非常に問題が出てくる。定員外でなくて五十人の定員のところ、四十人が措置児童がいない、あとの十人を私的契約児童を収容して五十人以内ならうこれは二十四条

又処置にあてはまるのではないか。それが五十人の定員
のところに六十人七十人分も食事代とかやっていると
は二十人はしむ可せされて完全処置が取れない。
そういうものが明らかになっている中でまた五十二才以内
のものを認めて追加していくということには非常に問
題がある。これは豊房だけでなく先ほどもい
おるようにほかのところにも多くあったということであ
ります。その点についてはどういうふうになるか、本件
がくまぐらで明らかになっていまいとそれが明らかにな
らないと法違反を認めるというふうになると思ひます。で
この見解を定買外の場合は館山市全体でどの位か調査
されておるか、第二点として私的契約見については料
金がきまつておるそうであつて、それが統一されて
完全な料金が取られておるか、聞くところによります。

裁量でやられているということなうわきですけれども
聞いておりますが、その点について調査されたと思ひます
ので御答弁のほどをいただきたい。このように思ひます。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）お答えいたします。

ただいまの定員外でございすけれども、今回の調査によ
りまして判明いたしました私的児童数 アンデレ保育園
二十五名 キリスト二十名 農豊房十六名 子育十五名
ユネスコ十五名でございす。アンデレとキリストは措置
見が六十名おりますのでこれだけは定員外でござい
ます。子育でユネスコは定員内でございす。

保育料でございすけれども、ただいまおっしゃった通り私的見は
措置見に該当する金額を納めなければならぬとい
うことになっておりますが、実際には徴収しております
金額はアンデレ、キリスト二十円、農豊房子育で千五百円

食 山 市 議 会
でございます。ユネスコはわかりません。

・三五番（松本藤太郎君）先ほどの数字を私わからないので
逆算したけれども、加藤守男雄と菊地隆子に
ラニウはしうニ菊地一房はしううように思われますが、
そうであるか。

・福祉事務所長（鵜沢貴覚君）これは三人ともこの一で
ございます！

・三五番（松本藤太郎君）Ｃといいますとどの位ですか、負担額は
福祉事務所長（鵜沢貴覚君）Ｃといいますと父兄負担額
は八百円でございます。それに三才未満児の場合は
加算金がつくわけでございます。

・三五番（松本藤太郎君）先ほど還付金という園長さんで
おたてかえていた。実際にはたてかえてはいない。

本当は三千四百九十円ですか、そう金の中から今いったような

こゝろ八百円を差し引いて残ったものが自分のところに来て
いる。実際にきてないのだから父兄が払おうという意
思はない。それを自分がたてかえたということとはあり得
ない、きてない子供をいたようにしたからこういう結果が
出てきた。還付金という言葉自体が出てくるから、人
がらがってしまふ。私はそういうふうに解釈したんですが
それでいいかどうかお尋ねいたしたいと思います。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）お答えいたします。

これは父兄が実際に納めた金でしたら、還付の問題は
当然起ってくると思えますが、ただいま説明しました
ように一応該当する金をたてかえて納めたという結果に
なっておりますので、還付すれば当然園長のところに戻
るというふうに解釈されますので、そういう点こそ本当の
還付金ではない。

三五番(松本藤太郎君) 還付金ではないですよ、これはA

Bの者だったら保護家庭とか母子家庭だったら一銭も

払わないから還付という言葉がなくて済んだ。

これがたまたまC一の子供で父兄が八百円負担しなければ

ならないことになっておたから差引いていかなければ

ならない。ですからたてかえたということはありません。

差額をぐまかしたということになる。かえってよくない。

同僚議員ということにもなるし、福祉関係のものをこのまま

にすることは許されないことでもあります。ですから今の

議題になっております委託料とは直接つあれはないん

ですが、一か基礎になる数値に移動があればくるつ

てくる。完全に関係がある。この問題は別にいて議会

としても、これに対する考え方をした方がいいと思います

ので、そう考えておりますが、もう少し説明をせざるをきに

しうつとですからわかりやすく今度出てくると思います。
よろしくお願いいたします。

議長(田中祿郎君) 暫時休憩いたします。

午後三時十分

休憩

午後四時十七分

再開

議長(田中祿郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

ニニ番(君塚喜三君) 私不勉強でございますので教えて

いただきたい。措置費の額なんです。が先ほどの御説明の

中で還付金、還付金でないという御訂正がございましてたが

三名について十一月の三才以上の菊地一房八千八百円

あとの二人三才以下の乳児ということになるわけですが、

それにつきましては四月について四千六百円、八月について

九千二百円、先ほど御説明でいけば還付金ということになるわけですが、ところで措置費は三才以上になれば副食を与えなければならぬ、三才未満については主食を与えなければならぬということとで措置費が違ふ。

九月から値上りしておりますが六十人、九十人といったような段階に合わせて一人の措置費は違ふようでございますが、今六十という定員について見ますと八月までが三才以上については三千三百八十円、六月からは三千五百七十円、さらに三才未満については八月までが四千二百九十円、六月からは四千五百八十円というものが加わっておりますから、これはずいぶん額が大きいと思ふに聞いておりますが、そうしますと措置費において食費の違ひがあるわけなんです、私はわかりませんが、この点を教えていただきたいと思ひます。

・福祉事務所長（鶴沢貴寛君）おっしゃる通り三才未満児につきましては、八月までは三千三百十円でございす、三才未満児になると加算金がつきます。その両方を合わせましたものが措置費というようになります！

・ニ番（君塚喜三君）としますと、四月間措置費を取っておったという、とはそれが四千六百円、片方は八ヶ月で九千二百円、一ヶ月では千五百五十円という、ことになりますか、これはどうしてになりますか、私納得がいきませんが、

・福祉事務所長（鶴沢貴寛君）ただいま君塚議員さんがおっしゃったものは父兄が納める負担額金でございす。

・ニ番（君塚喜三君）わかりました。

・一〇番（辻田実君）先ほど中途半端に終ったので結論だけ一点お伺いしたい。

私的児童の数はわかったわけではございますが、定員外が

相当あるということですが、定員外の児童については認められないということが原則だとおっしゃった。

そうすると会計なんかの場合、定員外の場合には別々に
なっておるか、認められていないか、いいながらも一元化
されていて、こっちで報告を受けて県の方の監督がなす
れておるか、委託料が別になっているか、いないで問題に
なると思います。が、帳簿はどういうふうになっておるか。

・福祉事務所長（鶴沢貴寛君）定員外の問題ですがいま
すけれども、これは園長さんたちから正直に聞いていただ
かなければわからない問題で計算してもその実態が
つかめないというのが実情でございます。・経理の面でい
がいますけれども、定員で経理されており、すから定
員外の方は経理上にはなっていない。

・○番（辻田実君）そうすると先ほどから質疑というの

あくまでも定員内のもので定員外のものは別になっておるわけですね。

・福祉事務所長(鴉沢寛覚君)お答えいたします。定員外の問題は今度の調査ではつきりたわけでございます。けれども、一か一經理の面では定員内の經理でまかなっておるんですが、定員外があることになると、實際問題になると定員外児童も措置費の範囲内でまかなわねばならないという結果になっております。

○一番(辻田実君)それはあくまでも市から見れば經理上の問題であつて定員内でまかなわねばならないということは先ほどの数では二十五人二十一人と人数でございしますが、それをやると半分以下になります。別会計があり得ると相想像できるといふことがわかればいいんですが、そういうこともあり得るといふことですか。あるかないかと

よろしいが、それだけ聞いて打ち切りないと思ひますので、
・福祉事務所長(鵜沢賢寛君)あり得るだろうということとは
相心像さいます。その帳簿につまみしては、はつきりな帳
簿は見えておりません。

・一番(吉田勇治郎君)ニ、際、動議を提したいと思ひま
す。

保育園事務に関し、なお、調査が必要と認めますので、
地方自治法第九十八条により、所管であります文教民
生委員会に調査を付託をしていただくよう、日程を追
加し、議題とされることを望みます。よろしくお願ひい
たします。提案者 吉田勇治郎、石井正、山本昇
保科忠夫、鳥野茂樹郎、議運を代表して動議を
提出いたします。

・議長(田中祿郎君)ただ今議運を代表し、一番議員君より

提出さるべき保育園の事務に関し、法第九十八条の
権限を賦与し、文教民生委員会に付託いたしなさいとい
う動議を本日日程に追加し、ただちに議題といたしな
いと思ひます。二つに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。さうして日程は
追加さるべき。

保育園の事務に関する調査と関係委員会に付託
さるべきという動議を議題といたします。

本動議うとありに決めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。さうして本動議は
可決さるべき。

文教民生委員会に保育所の事務に関する調査を

付託いたします。

・三番(菊井敏博君)―尿関係についてお聞きいたします。
―尿清掃に関していつから投入できなくなったか。また
今後いつから投入ができるのか。教えていただかないと
思います。

・衛生施設課長(志田耕一君)お答え申し上げます。投入でき
なくなつたのが、暮の二十八日からでございます。

なお、今後が見通しでございますが、大体十八日頃に完全操
業に持つていけるという見通しを持っております。

・三番(菊井敏博君)私も過去業者をやっておりまして
その体験からいまして、重要な問題であります。
で、今後四月過ぎますと、選挙によりまして、こ
の議場に入らなくなるかもしれませんが、館山市民を代
表して、私の経験から今後、清掃に関してお聞

きーたいと思います。

清掃法からいって、一尿処理という問題は市町村長に義務づけられていると、私は解釈してなりますが、二ヶ処理に関して業者にあるのか、市町村長にあるのか、こゝ点助役さんにお伺いしたいと思います。

・市長職務代理者助役（小虫武男君）一尿処理、いわゆる清掃事業でございしますが、これは市町村が行なう事務に法定されておる一つでございします。従いまして、市町村はそれをやることとがきめられておる。やる方法でございしますが、市が直営事業でやっているとすると民間委託にいておるとおるところと二通りあります。

市といふまゝでは今は一部市が直営、一部民間業者、という関係にあるわけでございしますが、今後どうするかという点になります。いろいろ財政的方面と

か、こゝういふ情勢を考慮いたしまして、できれば市
がやつたりいゝんではなにかという、直営の方がいい
んではなにかという希望を持っておるわけでございます
すが、これはやはり財政的な関係もございますので、
早急に結論は出ませんが、方向としては、そういう方向
でいくやがいゝんではなにかという考えを持っております。
一三番(菊井敏博君) 青掃法は青掃事業の運営主
体を市町村として、都道府県は市町村に対して技
術的援助を与える責務を負う。国は市町村に
対して必要な技術的、財政的な援助を与えなければ
ならないということが義務づけられている。これは当然市
直営であるべきが本来であります。

また四十一年度より厚生省令によりまして、直営でやむという
ことがきておる。それを業者が根強い反対によりまして

委託でもいい。当分り間、すなわち直営の前提として委託せよというところでやっていると思う。助役さんはできることならば、市でやりたいということとは矛盾している。そこで聞きたいことは、ニター尿処理を市で運営した場合、どう位う負担をしなければならぬかということとを一点お聞かせ願いたいと思います。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。経費の問題でございますが、現在考えらるる経費といふことは、現況は、現在業者が収集は大体八台でやっておるものが現況でございます。これを直営で実施する段階になりますと、八台の車では不可能だというふうに考えまして、大体、その倍近い車を持たなければ現在の業者と同じような収集ができません。ではないかという点を他の直営でもっております。地域等を見ましても考えら

いるわけでございます。従いまして人員等も倍近い
 人員を必要としてくるということから相当額、経費
 がかかる。なお民間でやっておいたもの、直営に
 いたという地域状況を見ますと、権利と申しますか、
 民間の方へ、補償と申しますか、そういう金がある
 程度出ておるといふ点も伺っております。まだほ
 つき、私も考えておりませんが、実際の面としては
 すぐ考えらるる経費は今申し上げまいなうな人
 件費、或いは車や台数等については倍近いもうがかか
 ってくるという程度だけ申し上げてお答えにかえたいと
 思います。

・三番(菊井敏博君)市直営でいえば、少なくとも二千万
 以上、負担がかかるのではないか。二は、我々、粗想像な
 んですが、それを現在業者によらしているということとは、

非常に館山市民にとって危険な事ではないか。サービスが
悪いではないか。私は議員である関係上、早くやめな
かったりであります。が、四年間、この清掃事業をやつ
いたんです。が、四年前から、課長さんを通りまして、私
議員在取中についても、無料で進呈するから、やめてく
市がやるべきだ、という事を再三申し上げてきました。
それが現在になって、厚生省令が出て、まだ館山市がやる
か、やらないか、という腹がきまつてないことは、私非常に遺
憾に思つてあります。

すなわち館山市においては、環境衛生に対して重要と
考へてない、というふうには、私は言わざるを得ないで
あります。ということは、市が終末処理場の施設があり
ながら、少なくとも、三カ月、四カ月、この処理場が使え
ないにもかかわらず、館山市民に何ら協力を頼ん

ていなのであります。

先ほど同僚議員がいきなりが不法投棄があった。これは業者としてはもつとも恥ずべきことだ。一か一ながら不法投棄をしなければならぬかという面をもう少し考えなければならぬ。

先ほど課長さんへ話にはかに捨て場を求めよう協力してあげていこうということをやわやわしたが、これは逆であつて業者が協力しているやであつて、私は市当局が協力しているものでないという解釈にまっております。なぜ館山市民にこのような状況で処理場が使えないから多少の不便はがまんしてもらえないかというPRをいなかつたか。その理由を御説明願います。

衛生施設課長(吉田耕一君) 確かに私も文書的には、お願いはいちております。一か一ながら各委託許可

業者に對しまして、取り取り、各戸につきまして、その
方面、実情を訴えて協力を求めてほしいというふうな
考えで、業者に御協力をいただいておりますという方が事
実でございます。従いまして、文書或いは、その他、直接
の方法をもって、市民にPRしなかつた点は事実でござ
います。その点、私後悔をいたすわけでありましたが、業者
を通じて協力方を伝達してほしいというのを願ひだけは
して参つたわけでございます。

○三番（菊井敏博君）課長さん並びに市の方皆さん、清掃
問題に非常に苦労してゐることは私もよくわかつて
おるのでございます。一か一ながら、市としまして、業者に
指導しなけばならぬ立場は十二分にあらるわけでござ
います。そこで私一二例を取つて申したいので
ございますが、果たして現在、料金が適正かということ

をまずお聞きたいのでございます。ということは業者
着う搭てる料金というものは過去う経験にすぎまう
投入料が六万ということもわかつておるんですが、六万
ということは実質う収入は五十万ということなんです。
五十万の中から六万取られて我々が四台の車で経験
をうやうおる経験から当然やうていけない。

業者そのものが悪いことをするのではないか。お客さま
に迷惑をかけているのではないかということを市が心
配してくくてもいい。すなわち私う言いたいことは業
者に取み取りを委託する場合、料金は市がこれ
を徴収すべきであると思ふのであります。その点
いかがですか。お聞きかせ願いたいと思ひます。

衛生施設課長（吉田耕一君）業者が徴収しております取
り取り料金が適正かどうかということでございますが、現在

「取み取り」料金は決して高いものでもない。適正だという考え方を持っておるわけでございます。

・三番（菊井敏博君）適正料金であれば当然館山市は直営になってもすぐできる。そのため私は適正ということを確認したかったんですが、これをせむ。一日も早く直営にして館山市民の環境衛生に尽くしてもらいたいと思っております。それをやってもらえるかどうか御答弁をお願いいたします。また当然やらなければならぬと思います。時期です。いつ頃からやるといふことをお聞かせ願いたいと思います。

・市長取務代理者助役（小出武男君）市が全部末端収集までやる時期でございますけれども、これは今処理場を作ったので相当費用もかかっております。さらに全部市でやるというのには、いつ頃といううちはちっと将来

こととございます。うていつ頃ということは申しかねますが、
財政の限り、そういう方向に早い機会にやていきたい。
三という程度、か今申し上げられないわけでございます。
一三番（菊井敏博君）非常に疑問があるんですが、さっき
課長さんが、言われた適正料金ならば、市が直営にな
つても、財源も向にもいらないと思ふんです。この点、い
がですか。

それからもう一点、館山市の真倉に二万石位、うー尿がた
まつてゐる。現在、終末処理がありながら、業者が負担
してゐる。何か間違ひがあつた場合、大へんな騒動が
起ると思ひますが、そういう問題、二ヶ点も合わせて

御回答いただきたい。

市長（市役所代）
助役（小出武男君）結局業者委託の経費が少なくて、非
常に経営が困難だ。ならそれで市が満足するなら市

がやったりというんですか。

一三番(菊井敏博君) 適正料金だと私も思っている。課長も適正料金と思ってやっていることは現在でよいというところが結論になります。ですから、そのまま、館山市民が困っているから適正料金で市がやってくれば、市民が安心するのではないか、ということなり、なぜ市がやらないということを聞いてなるわけです。

市長事務代理者助役(小出武男君) 前に三いうことがあったことを記憶しておりますが、市に移管する場合に今まで、営業権というものをどうするか、こういう問題が当時問題になったことを記憶しております。業者の方は一つ営業権としてやっておるわけですから、それを市に移譲する場合に市に対する補償が要求されたわけでありまして、そういう時期があった、今はどうか、菊井議員

さんは無償で市にやる。こういう御発言でございまして
その点すつきりいたしますが、全部果たしてそういくも
のか。二うう二とが第一点。もう一つ、車も十何台も一
度にそろえるにも経済上、多額の費用がいる。二うう
二とも一応考えられますが、ですから、そういう点がうまく
解決されて、そうしてスムーズに行なわれる時期が早く
あつてほしいと思うわけでありしますが、一からば、いつと
いう二とになりますよ、先ほど申しましたようにでき
ませんが、そういう問題点が考えられる。

それから、真倉に処理場ができる前に相当貯蔵され
ておる。二からも市としては、あうとき、業者にお願いをし
て、あう危機を乗り切つたわけでもございますが、やはり処
理場の能力が余剰ができた場合にやはり徐々に解決
していかなければならぬ。二ううふうに考えております。

・一三番(菊井敏博君)助役さんにそう言われると非常に腹が立つことがある。過去四年にさか上って処理場ができたとき、清掃法に基きまして業者の許可を取り消すときは、市長村長がこれに対して明確な理由を申し述べなければならぬ。また業者はこれに対して異議を申し立てるということができるとなっている。それを業者といへんも話し合わぬ。過去、現在、市の直営に關してやっている仕事を無断で取り上げた経験がある。現在、館山市は、四業者ありまして、二業者が商売不振うためにめめてしまったという経験がある。このまま、何年かたちますと、業者は消滅して非常に混乱を起すということを信じて疑わないのでございます。そういったものに現在二億二千五百万の予算をもつて市民センターを作り文化都市というものを打ち出そうというのには

私はまことにもって納得いかないんですが、もう一度御
返答願います。

・二三番(中村省吾君)ただいま^{質疑}疑中でございますが、今う
質疑応答の中で委託という言葉が双方とも使われ
ておるわけでございます。直営委託、ニういうふうに
簡単に申し上げておりますが、委託という言葉は非
常に深い意味があるのではないかと考えます。そう
点議事進行上、もう少し慎重にお考え願いたいと思
います。

・一番(吉田勇治郎君)委託という言葉に全く私も心配
しておりますが、一三番議員は、会社をめぐりて
おられるというところでございまして、時間の貴重さ
を考えてそのまま質問を続行して、議会を運営して
おたわけでございますが、暫時休憩を願いたいと

思っています。

議長（田中祿郎君）暫時休憩いたします。

午後 四時五十四分

休憩

午後 五時十四分

再開

議長（田中祿郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。
市長職務代理者助役（小出武男君）先ほど私が発言中に直営
委託ということを申し上げましたが、これはあくまでも法
律上の委託ではございませんで、軽い意味で委託と申
しませんが、これを正式にいうならば、汚物取り扱ひ業者
に行なわせておるというべきところを委託してというふ
うに表現いたしましませんが、委託は解がありますので、こ
ういう意味でということをしてここで訂正したいと思ってい

一三番(菊井敏博君) 私も全く助役と同じ意見でございます。熊山市の今後、市民のために一日も早く直営でやうてもらう、というのと、ここに再度お願いいたします。が、その点お聞きして質問を打ち切りたいと思います。市長取務代理者助役(小出武男君)ただ今、御意見でございますが、先ほども述べまいか、うに国の方針がそうなっておりますので、財政とやらを合わせてなるべく早い機会にその方向にやりたい、ということと、この際申し上げます。

議長(田中祿郎君) 他に御質疑ございせんか。――質疑なしと認めます。

議案第十号は討論省略原案通り可決することに御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（田中祿郎君）異議な—と認めます。よって議案第十号は原案通り決定さします。

日程第六 議案第十一号乃至議案第十五号を一括上程いたします。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）質疑な—と認めます。よって議案第十一号乃至第十五号は討論省略原案通り可決することと御異議ありませんか。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議な—と認めます。よって議案第十号は原案通り決定さします。

日程第六 議案第十一号乃至議案第十五号を一括上程いたします。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

議長(田中祿郎君)質疑ありと認めます。よって議案
第十一号乃至第十五号は討論省略原案となり可
決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって本
案は原案となり決定されました。

本日會議はこゝにて散会となります。

次会は明三月十五日午前十時開会となります。
その議事は昭和四十二年度一般会計並びに特別会
計予算案の内容説明となります。

午後五時二十分 散会

本日、会議に付いた事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 六三郎

望月 照正

安西 益男

北田 実

石井 正

菊井 敏博

志村 信作

小沢 忠太郎

関 武夫

黒川 佐太郎

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

若塚 喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

鈴木市蔵

安藤竜吉

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

山口康

大席議員

田村源治郎

荻生田七郎

鳴田繁

山田教字

安沢徳順

大席説明者

一、第一日目以下同

大席事務局職員

一、第一日目以下同

